

平成26年度第1回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成26年8月28日(木) 19時00分から20時45分

場 所： 墨田区役所12階 122会議室

- 議事内容：
- 1 開 会
 - 2 福祉保健部長あいさつ
 - 3 委員紹介
 - 4 会長・副会長の選出
 - 5 事業紹介
 - (1) 小地域福祉活動の拡大
(墨田区社会福祉協議会)
 - (2) 「平成26年度 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」
(厚生課)
 - 6 『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について
平成25年度実績及び平成26年度計画
 - 7 閉 会

【配布資料】

墨田区地域福祉計画 平成25年度実績報告 平成26年度事業計画

墨田区地域福祉計画 平成25年度実績報告 平成26年度事業計画(概要版)

小地域福祉活動について

第4回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏 名	所 属	出欠席
山 口 稔	関東学院大学教授	欠席
市 川 菊 乃	墨田区医師会会長	欠席
湯 澤 伸 好	東京都本所歯科医師会会長	出席
濱 野 明 子	墨田区薬剤師会会長	出席
吉 田 政 美	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘 司 康 男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野 原 健 治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼 田 典 之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
小 林 実	はなみずき高齢者在宅サービスセンター長	出席
今 牧 茂	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
深 野 紀 幸	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
椎 名 美恵子	墨田区男女共同参画推進委員会	出席
石 鍋 光 子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	出席
伊 藤 林	個人ボランティア	出席
本 宮 秀 明	全国福祉情報研究会3 SUN ネット墨田支部	出席
井 上 久 子	録音グループかりん会長	出席
齊 藤 宮 子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外 川 浩 子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
大 滝 信 一	墨田区福祉保健部長	出席
関 口 芳 正	墨田区子ども・子育て支援担当部長	出席
中 橋 猛	墨田区保健衛生担当部長	出席
小久保 明	墨田区区民活動推進部長	欠席

事務局

厚生課長 池田 善久
 障害者福祉課長 小坂橋 一之
 高齢者福祉課長 栗林 行雄
 区民活動推進課長 中山 賢治
 厚生課 本田、山崎、柴田

その他

墨田区社会福祉協議会 新井

議事録

【1】 福祉保健部長あいさつ

「今回は、14名の方が継続して就任いただき、8名の方が新しく委員になりました。2年間、よろしく申し上げます。本日の会議は平成25年度実績及び平成26年度計画がメインです。忌憚のないご意見を願います。」

【2】 委員紹介

厚生課長より、新任委員（湯澤委員、濱野委員、沼田委員、小林委員、椎名委員、井上委員、外川委員、小久保委員（欠席））を紹介した。

【3】 会長・副会長の選任

（1）委員の互選により、野原委員が会長に選出された。

（2）会長あいさつ

会長

「計画を実のあるものにしなければならない。みなさまのお力を借りたい」

（2）会長の指名により、山口委員が副会長に選任された。

会長

「副会長には専門家が必要。策定時から山口教授にかかわってもらって、オリジナルのものができた。今後の修正に向けても、助言をもらいたい。」

【4】 事業紹介「小地域福祉活動の拡大」

（1）社会福祉協議会より実施概要の説明

- ・小地域福祉活動とは「住民が主体的に行う『地域の支えあい活動』の総称」。
- ・すべての人が支える側、支えられる側になる。
- ・1対1の個人的な「お世話焼き」ではなく、グループでの活動。
- ・「地域が変わってきている」という実感がある。
- ・「次の世代につないでいこう」という動きがある。
- ・複数の町会エリアをまたぐ「拠点型」など、参加しやすい場づくりに努めている。
- ・小地域、ふれあいサロン、拠点型、おもちゃサロンで合計44か所となっている。

（2）委員からの質問・ご意見

町会や老人会などの既存組織との関係の中で、批判などはないのか？また、それらの組織の活動を肩代わりする部分はあるか？

小地域は、見守りの土台作りであって、対象を限定していない。邪魔にはなっていない。町会と民生委員には相談した上で活動を始めている。有志で始めて、町会の一部になった活動もあるし、初めから町会の一部がやっている場合もある。若いお母さん方が町会に興味を持つきっかけになればいいと考えている。(社協)

子育て世帯のつながりは幼稚園・保育園ごとにはまとまるが、地域ではまとまりにくい。どのように相談や支援を考えているのか？子育てひろば事業との関連は？

お母さん、お父さんは地域となかなかつながらない。そのため、拠点型を始めて、児童館や小学校で活動している。そこで子どもを介して子育て世代と高齢者がつながりを作り、それをよりコアな地域へもどしていきたいと考えている。ひろば機能はある程度有していると思っている。来ている地域の高齢者は相談員ではないが、児童館、みまもり相談室、社協の職員はいるので、何かあれば相談できる。(社協)

聴覚障害者はコミュニケーションが難しい。参加しても孤独を感じると思う。一か所に集中して聴覚障害者のための場を作れないか？

小地域福祉活動は地域単位なので難しいが、障害者の方が集まる場づくりは、社協の他の事業で進めている。高齢の聴覚障害者のサロンへの保険などの支援をしている。(社協)

【5】 事業紹介「平成26年度 すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」

(1) 厚生課より実施概要の報告

- ・7月5日に第4回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムを開催した。
- ・プレトーク、パネルディスカッション、ボランティア紹介、分科会などを行った。

(2) 委員からの質問・ご意見

テーマが重複してはいるが、ある程度の成果はある。横のつながりをつくる企画をしていただいた。

広い層の人が呼べないという問題がある。吹奏楽も、効果が薄かった。ボランティアしてない人を集めて関心を持ってもらうのが趣旨なのに、やってる人ばかり来ている。誰もが何かを得られる場でないといけない。ボランティア文化がまだできていない。まだまだ工夫が必要と思う。

【6】 『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について

(1) 厚生課長より計画の位置づけを説明

会長

「2000年に構造改革があり、社会福祉事業法が社会福祉法に変わった。『措置から契約へ』という大きな流れと、『地域福祉』の法律への位置づけ。社会福祉協議会が中心になるべきもの。この地域福祉計画は区の基本構想に基づくものであり、各行動計画の基盤となるものである。」

(2) 厚生課長より「平成25年度実績及び平成26年度計画(概要版)」を説明

会長

「本計画は、2010年度に策定し、2011年度から実施している。さまざまな事業があるが、優先的なものを指定し、資料の冒頭に挙げている。一つ目が『見守り活動の推進』。二つ目が『福祉教育の推進と担い手の育成・支援』で、民生委員の働きが重要なので、優先的取組みに入っている。三つ目が『プラットホームづくり』で、課題を話し合う場、ベース、基盤をつくり人のつながりを作る必要がある。四つ目が『情報の提供・周知』。主体は厚生課、社会福祉協議会、民生委員協議会、各ボランティア団体など。まだまだ参加してもらう必要がある。」

(3) 高齢者福祉課長、社会福祉協議会事務局長、厚生課長より「平成25年度実績及び平成26年度計画」のうち「優先的取り組み内容1～12」を説明

(4) 委員からの質問・ご意見

情報の周知について

- ・区民に知られてないことが多い。まだまだ周知に課題がある。
- ・みまもり相談室がどんなことをしてくれるのか、もっとPRしていくべき。
- ・みまもり相談室の周知について、届かない層がある。まだまだ工夫が必要。
- ・みまもり相談室の周知はまだまだ必要。認知症の早期発見にもつながる事業だと思う。
- ・たくさんの事業があることをはじめて知った。周知がもっと必要。

区民参加の促進について

- ・ボランティアフォーラムについては、いろいろ忙しかったこともあり、どのように自分たちが参加すればいいのか、これからの展望についてなど、考えがまとまらず、展示も含め参加しなかった。
- ・ボランティアフォーラムなど、携わっている人が固定化しており、いかに壁を取り払うかが課題だと感じている。
- ・男女共同参画推進でも、イベントの人集めが課題になっている。関連する事業もあるので、連携してはどうか。
- ・仕事とのバランスも含め、ボランティアのあり方について世代を超えて考える場、機会が必要。人によって定義がまちまちではないか。
- ・サロンなどの集まりには昔からいる人が多く、外から来た新しい人が入りづらいのではないかと？新しく来た人の担当を決めたほうがいいのではないかと。
- ・小地域福祉活動を9年続けている。自治会と一緒にやっている。成果が出ている。スイカ割り大会に大人100名、子ども60名が参加。「ここに住んでるよ」という「顔が見える」関係になれるように取り組んでいる。

福祉教育の推進について

- ・学校のボランティアスクールは全学校を何年でやるというような計画があるのか？10年計画ならどんどんこちらから働きかけないと。高齢化も進み、担い手不足になってしまう。
- ・学校の協力がなくてできない。教育委員会に校長会などで呼びかけているが、無関心なところはいつまでたっても無関心だ。学校からの申し出を待ってやっている。こちらから学校に

働きかけるのは難しい。理解のある学校を重点的にやるのがいちばん効果的。

事業評価について

- ・事業評価は誰が行っているのか？男女共同参画推進委員会では、委員会が第三者として事業を厳しく評価し直している。地域福祉計画はA評価ばかりで驚いた。
- ・事業の評価方法については、前回から課題として挙がっている。評価方法を改善する必要がある。
- ・評価Aは「及第点」という意味で、「優」「良」「可」すべてがA評価になっている。違和感はあるが、他の計画もすべてこうなっているので変えにくい。

見守り活動について

- ・最近、高齢者のDV事案があった。飲酒・暴力のある高齢者を地域でどのようにみまもっていくか。課題がある。
- ・高齢者、障害者、子どもが主な対象になっており、中高生や働き盛りの方への心のケアはどうなっているのかなと感じた。
- ・中高生の心のケアについては、児童館を居場所にしてくれる中高生には指導員が支えていくことが出来る。ただし全体の1%しか来ていないのでPRが必要。スクールカウンセラーは不登校の子に関われない。引きこもってしまっている子へのアウトリーチも必要と思っている。
- ・保健センターで精神保健相談をしている。ぜひ相談してほしい。

その他

- ・地域福祉をどうしていくのか、厚生課、社協、みまもり、民協で話し合う場所が必要。
- ・協議会の開催日程はなるべく早く知らせてほしい。

【7】 まとめ

会長

「来年度は計画の見直しを行う。協議会もそれに向かって進む。新しい方は新しいチャンネルを持っている。今までの方にも進捗などをお知らせしたらいい。人の輪、一緒にすごした時間を大切にしていきたい。今までのことをベースにしつつ、新しい道具を使いながら進めていきたい。話が広範囲なのでたいへんだが、これからよろしくお願ひしたい。」